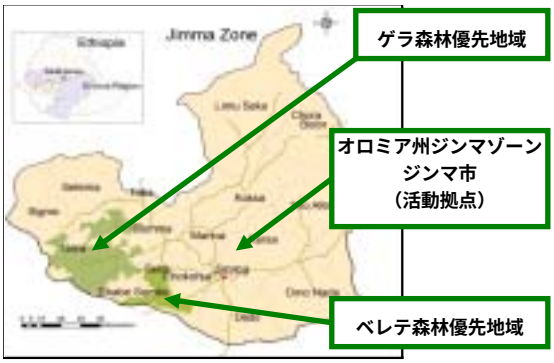
WaBuB PFM News

～Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management～

JICA 技術協力プロジェクト

エチオピア　ベレテ･ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2007年3月20日発行　(第4号)



WaBuB 普及活動の本格化へ

これまでに発行した WaBuB PFM News の中で、「森林管理契約を結んでも、生活は今までと変わらない」といった住民の声や、「森を守る＝生活がよくなるという方程式の答えを見つけることが、継続的な森林管理活動に必要」といったことを、お伝えしてきました。第4号では、「ベレテ、ゲラに住む人々は、実際にはどんな生活をしているの？」「収入はどのくらい？」といったご質問にお答えすることにより、彼らが抱える問題と森林保全との関係、プロジェクトが目指している方向についてご紹介したいと思います。

ベレテ･ゲラ NOW　～住民の生活の現状～

ゲラ森林内のアファロ集落に住む人々は、現金収入のほとんどを、11～1月に収穫、出荷する天然コーヒーに依存しています。1世帯の平均的な森林コーヒーの所有規模は、約 2.5 ヘクタールで、収穫量は年によって異なりますが、平均すると 400～500kg 程度あります。収穫されたコーヒーは、果肉がついたままの状態で、庭先等で天日干しにして乾燥させた後、馬やロバで市場まで運び、キロ当たり約7ブル程度（日本円で 100 円程度）で仲買人に売却します。こうして、アファロ集落の一般的な農民は、コーヒーを出荷することにより、年間 3,000~3,500 ブル程度（45,000~50,000 円程度）の収入を得ています。もちろん、集落内には、大規模に森林コーヒーを所有する農民もいますので、収入にも格差があり、裕福な農民は、他の農民から収穫期にコーヒーを買い取り、自分の家の倉庫で保管して、値段が上がったころに市場に出荷するというような、商売を行なっている人もいます。

その他の現金収入として、蜂蜜があります。竹や樹木の表皮で作った円柱状の伝統的養蜂箱を木につるし、1年～1年半後に収穫を行ないます。1個の養蜂箱から6～8kg 程度の蜂蜜が収穫され、約 100kg 程度を毎年収穫し、市場に出荷します。価格はキロ当たり5～8ブル程度（70~100 円程度）です。コーヒーと蜂蜜を出荷することにより、平均的なアファロの農民は、年間 4,000 ブル程度（約 55,000 円）の収入を得ている計算となります。その他、現金が必要な時は、家畜（牛や羊）を売却することもあります。牛1頭は約 1,200 ブル（約 17,000 円）、羊1頭は約 250 ブル（約 3,500 円）が、最近の市場での相場となっています。

アファロ集落の住民は集落内で小規模な農地も所有していますが、主に自家消費用の作物（主にトウモロコシ）の生産がほとんどです。これは、野生動物（サルやイノシシ）による作物への被害が多く、住民も大規模に農業を行なうことをしていないからです。食糧（穀物）の不足分は市場で購入しています。

一方、ベレテ森林のチャフェ集落では、アファロ集落に比べると、1世帯が利用する森林コーヒーの規模も小さく（平均的な農家で、0.75 ヘクタール程度）、森からの収入は限られています。これは、ベレテ森林がゲラ森林に比べ規模も小さく、また、森自体も蚕食が進んでおり（森林内への農地拡大）、森としての状態があまり良いとはいえないからです。このため住民は、居住地周辺の農地で、トウモロコシ、大麦、小麦、豆、テフ（主食のインジェラの原料となる穀物）、野菜（キャベツ、玉ねぎ等）を栽培しています。これらも、多くは自家消費され、市場へ出荷される量は限られており、チャフェ住民も、現金収入の多くは、コーヒー、蜂蜜に頼っているのが現状です。

以上のように、アファロ、チャフェの住民とも、現金収入のほとんどは「森の恵み（コーヒー、蜂蜜）」に頼っており、「森を守る」必要性は感じていることは確かです。では、プロジェクトとして、住民による「持続的な参加型森林管理」を実践していくために、何を目指していけばよいのでしょうか。

まずゲラ森林では、森の状態も良く、コーヒーや蜂蜜から、住民は比較的まとまった現金収入を得ることができます。とはいっても、「WaBuB を組織化して、森林管理契約を結んで、その条項にそって森を管理してください」と言うだけでは、住民にとってあまり面白みがありません。プロジェクトに言われなくとも、これまで、彼ら自身で、立派に森を利用し管理してきたからです。森林管理契約を結ぶことで、「森に住み、利用する権利」が保障されるだけでなく、森を今後も良い状態で守り続けていくことのメリットを、住民自身が認識できるような仕組みが必要となってきます。その答えの一つは、「森を守ることで、森からの現金収入が増える」ことにあるのではないでしょうか。プロジェクトでは、彼らが収穫する天然コーヒーを、オーガニック･コーヒーとして認証を受け、商品価値をあげることで、出荷時に農民が現在より少しでも高い価格でコーヒーを売却することができる仕組みを整備することを検討しています。

ベレテ森林に住む住民には、上記に加え、既存の農地の有効利用をサポートしていく必要があります。他の途上国と同様、ベレテ周辺でも人口増加が進んでおり、食料のほとんどを自給に頼っている現状では、将来、森林エリア内へ農地が拡大していくことは容易に想像できます。プロジェクトでは、既存の農地の活用促進（商品作物の紹介や、アグロ･フォレストリーと呼ばれる農作物と樹木を組み合わせた余地利用、土壌保全等）をサポートすることにより、収穫量や農作物からの現金収入を増やし、将来的な森林内への農地拡大を抑えていく試みを、森林管理活動とともに行なっていく予定です。

WaBuB は、現地オロモ語で（地域住民により組織される）森林管理組合の略称、PFM(Participatory Forest Management)は参加型森林管理の略称です。よって、WaBuB PFM は、本プロジェクトが確立・普及を目指す WaBuB による参加型森林管理方法を意味します。

WaBuB PFM 普及教材を作成しています！

WaBuB による参加型森林管理を普及するための準備の一環として、現在、プロジェクトでは、「WaBuB Field Manual」という教材を作成しています。対象集落を選定し、住民の合意を得ながら WaBuB を組織し、森林管理契約を作成するまでのステップを11に分け、ステップ毎の手続きや留意点をまとめています。また、スケジュール表やチェックリスト、各種書類の様式なども盛り込み、普及活動の主体となる普及員(Development Agent)が手軽に参照でき、使い易いものとなるよう配慮しました。

この Field Manual を基に、各郡の普及員（シャベ・ソンボ郡 11 名、ゲラ郡 33 名）を対象としたワークショップを開催しました。WaBuB PFM の紹介に加え、「WaBuB Field Manual」の各ステップが本当に実用的かどうか、普及員からの声を聞きました。多くの議論を通じ、WaBuB の普及に向けてやる気を見せたようには見えましたが、実際にうまくいくかどうかは、始めてみなければわかりません。これからの普及活動の様子や反応を見ながら、随時、Field Manual の内容を改定・充実させていく予定です。

この Field Manual は、これから現地オロミア語にも訳し、対象となった村や集落にも配布し、住民にとっても活用できるものにしていきたいと願っています。また、読み書きがうまくできない人々にも、森林の大切さや WaBuB を組織する意義を理解してもらえるよう、普及用の漫画冊子も作成中です。

ジンマの絵描き・エリアスとの日々

「今日エリアス来てる？」が、いつしか毎朝の挨拶のようになっている。上記で紹介した Field Manual や漫画冊子の挿し絵を描いているのが、ジンマで稀有の存在、絵描き・エリアス氏である。絵描きなどまず存在しないだろうと諦めかけていたが、どうにか口コミで探し出したところ、その風貌とは裏腹に、実に素直で美しい絵を描く。

ジンマの絵描き・エリアス

だがしかし、やはり芸術家は気分屋なのか、思うようには進まない。未だ 1 枚も描いていないのに、「筆を買ってくれ」「腹が減ったから前払いしてくれ」「チャット（覚醒作用のある葉）が欲しい」…と、注文ばかり。「絵描きなのに、筆がないとはどういうことだ！」などと、毎日のように問答していると、ある日、娘を連れて「腹が減った…」と来たのには、さすがに参った。ようやく何枚か描いてくれて御代を払うと、何日も現れない。家に電話をかけると、彼の妻が答える。「お金なんか渡したら、しばらく仕事をするわけないでしょ！」 やれやれ、どうしたらいいのだろう・・。

ケニアの Farmer Field School を視察

前ページでも触れたように、ベレテ・ゲラにおける生計向上活動の一環として、既存の農地における農業生産性を高めるための取り組みを行なうことを考えています。そのヒントを与えてくれそうな活動が隣国ケニアで行われており、郡の行政官（森林官）3 名と共に視察してきました（3 月 4～11 日）。

ケニアで実施されている「半乾燥地社会林業強化プロジェクト」の協力を得ながら、Farmer Field School（通称 FFS）の活動を行っている5つの村を見学しました。FFS というのは、農民グループを主体とした農業技術研修の手法で、グループ内の1名が自分の農地の一部を提供し、そこで作物や苗木を共同で育て、その生育状況を毎週決まった時間に観察・分析し、グループ間でアイデアや技術を共有する仕組みです。技術やコストが農民の身の丈にあっているので、修得した技術をすぐに自分達の土地で実践できるのが特徴です。

FFS 活動の様子（観察結果の発表）

見学した多くの村で、女性が自信を持って意見を述べ、積極的に取り組んでいるのが印象的でした。エチオピアは特に女性の識字率が低く、集会などの場に女性がほとんど出席しない（できない）状況です。多くの課題はありますが、ベレテ・ゲラ版 FFS の取り組みを進めていきたいと思っています。

ベレテ・ゲラの有用樹種

Boto (*Schefflera abyssinica*)

第 2 号で伝統的養蜂箱をご紹介しましたが、ベレテ・ゲラの養蜂家達は、箱（筒）を吊るす木や位置を慎重に判断しています。沢など水辺の近くの木に15－20箱ほど吊るし、そのうち蜜が収穫できるのは、約半数ほどのようです。味の良い白い蜜を多く生産するとされる Boto（オロミア語の呼称）の木は、養蜂箱を吊るす木として好まれています。住民に頼んで白い蜂蜜をなめさせてもらうと、口いっぱいに花の香りが広がり、「これが本当の天然の蜜なのか」と、驚きました。しかし、伝統法の場合、据え置き型の改良型養蜂箱のように、蜜ロウと蜜を分離する技術が発達しておらず、収穫した蜂蜜の中に多くの屑が入ってしまっています。ローカルの市場では普通に販売されていますが、都市部へ製品として出荷するには、特にこの分離方法や品質管理が課題となりそうです。

左側が白い蜂蜜

4 月中旬までの主な活動予定：
3/19-21：PFM（参加型森林管理）国際会議（アジスアベバ）
3/23：各郡および州とのプロジェクト実施体制に関わる合同協議
4/初旬：ローカル NGO との共同による生計向上支援活動開始

発行元：ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ 2　ニュースレターやプロジェクトへのご意見・ご感想もお待ちいたしております。
E-mail: belete-gera@ethionet.et （担当：西村、吉倉）　URL: http://project.jica.go.jp/ethiopia/0604584/